

庄内協同ファームだより

No.137 2012年1月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
<http://www.shonaifarm.com>



羽黒山表参道

明けましておめでとございませう

昨年は春の低温と日照不足で農作業、作物の生育が遅れ、夏には記録的な大雨で枝豆の生育不良で平年を大きく下回る収量、秋には大きな台風はなかったものの風害、日照不足、低温等による、水稻の収量、品質に低下が見られました。そんな中で、唯一大豆の収穫時期、好天に恵まれ収穫作業が順調に進み汚損粒、しわ粒、発芽粒などの被害粒が少なく歩留まり・品質とも高い年でもありました。

12月末に初雪、それがそのまま根雪になり、今は一面真っ白、田んぼも畑も春まで一休み、私たちも年末

まで餅製造で忙しい日々が続いていましたが、今は少しゆつくりしています。これから作物別部会でそれぞれ昨年の生産、販売などの反省と今年の計画を話し合います。有機栽培に取り組んで20年近くなりですが、栽培技術面で出てくる反省はいつも同じようなことで進歩していないと言えればそれつきりです。それほど有機栽培は難しい栽培法ともいえると思います。水稻、枝豆、大麦、大豆栽培で共通課題は特に雑草対策。個人差が大きく大面積でも雑草をはやさずに栽培する人もいれば、小面積でも雑草に負ける人もいます。有機農業を初めて試みた頃は異端児扱いされた私たち、くじけそうになった時もありましたが、消費者の多くの方から支援を頂き、なんとかここまでがんばって来られました。二〇〇六年に「有機農業の推進に関する法律（有機農業推進法）」が成立され、環境保全型農業を積極的に推進するようにになり、国でも積極的に広めようとしています。環境保全型農業を今まで以上、皆様方とともに推進して行きたいと思っています。

設立メンバーも今や大半は六十歳代、体力も思考力も衰えは隠しきれませんが、事業体の経営は次世代にバトンタッチして、今まで培ってきた経験とチャレンジ精神を忘れず創意工夫し有機栽培の安定技術を探って行きたいと思っています。今年も天候に恵まれ出来秋に喜べる年であってほしいと願います。本年もどうぞよろしくお願ひします。

理事 小野寺 仁志

炊き出しボランティアに行ってきました

1月22日仙台市若林区にある仮設住宅に炊き出しに行ってきました。
搗きたての餅と庄内風の雑煮を食べていただきました。
前日からの雪で天気心配されましたが、何とか降らずに安心しました。
あいコープみやぎさんから事前に連絡していただいた事も、ありがとうございます。
人からお手伝いをいただき大変助かりました。ありがとうございました。
お餅は住民の皆様が大変好評で餅に甘さがあり柔らかくて美味しいとの事でした。
庄内風の雑煮では特に岩海苔の香りと風味がよく美味しいと食べていただきました。
今後、機会があれば何らかの形で支援を続けて行きたいと思えます。



あいコープみやぎさんより住民の皆さんへ案内をして頂きました



会場は仮設住宅内にある集会所「みんなの家」で行いました



会場では除雪から準備を始めました



臼による餅つきをしました



住民の皆様からも餅を搗いてもらいました



ファームの人との協同作業です



あいコープみやぎさんの女性職員の皆さんからお手伝いをいただき準備を始めました



雑煮が出来て皆様に配ります
又仮設住宅に配達にも行きました



庄内風雑煮を食べています



美味しい笑顔で私達も少しはほっとしました



寒い中で食べる雑煮も美味しそうです



小野寺喜作(ファーム理事)の、わら細工に興味を示し一緒に作っています



協力頂いたあいコープみやぎの皆さんと。

日本の伝統的なソウルフード

ひしもちと三色ぼんちゃん



3月3日とい
えば、ひなまつ

り。ひな人形を
かざり、女の子
を祝う日本古来
からの年中行事
「桃の節句」と
もいいます。

しかし、もと
もとは春先に農
作業をはじめ
にあたり、天災
や不作などから
家族や作物を守
るための厄払い

の行事であり、ひな人形はもともとの汚れをうつして
川などに流す身代り人形として使用されていたそうです。
ひなまつりが農業に所縁があったとは意外です。そのひ
なまつりにひな人形と飾られる伝統的な食べ物がありま
す。

今回は、「ひしもち」と「三色ぼんちゃん」（いわゆる
ひなあられ）を紹介します。

どちらの商品も3色に彩られています。この桃・白・
緑の3色はそれぞれ、生命（桃）・雪の大地（白）・木々
の芽吹き（緑）を表しており、この3色のお菓子を食す

ことで自然のエネルギーを授かり、健やかに成長できる
という意味があります。

このように日本人の食べ物には季節や祈りことなどを
具現化したようなものがあり、そんなことから日本人
が情緒豊かな国民性であることが伺えます。

ひしもちの原料は、農薬が慣行基準の7割減で、化学
肥料を使用していないもち米「で



ひしもち

わのもち」を使用していて、緑
色の部分は山形県内で採れた自
生のよもぎ、桃色の部分には紅
麹色素を使用してそれぞれを鮮
やかな演出しています。



三色ぼんちゃん

一方三色ポンちゃんの原料は、
農薬と化学肥料を一切使用して
いないうるち米を使用、緑色は
組合員が栽培したモロヘイヤを
粉末にしたものを使用してい
て、これも農薬と化学肥料を使用
していません。桃色はひしもちに
使っているものと同様の色素を

使用しています。

3月3日にひな人形といっしょに飾っていただき、飾
った後には、おいしく食べてもらおうとありがたいです。

我々生産者も今年一年無事に農作業ができることを願
い食べたいと思います。

つや姫フォーラムに参加して

志藤 正一

山形県の期待品種つや姫の本格作付3年目を前に“新春
つや姫フォーラム”は1月6日、三川町、菜の花ホールで開催
された。

1年目の平成22年は高温障害を起こし、品質を低下させた
他の品種を尻目にその高品質が評価され、期待を込めて作
付された2年目23年産は出羽丘陵沿いの東風の強いところ
を中心に着色粒を出し、収量、品質を落とした。売れ行きが
好調なこともあり、あまり問題点を表面化させたくない行政、
農協、普及機関の思いと気象的な問題だけでなく、栽培マニ

ュアルや栽培者の自主的対応が必要と考える農家側との間
に微妙な問題意識の差が垣間見えるフォーラムであった。
山形大学の安藤教授の講演は8～9月のフェーン現象によ
る高温東風が今年の品質、収量に与えた影響が大きいとし
ながらも庄内ではケイ酸補給（土づくり）による風への抵抗
力も考える必要があると話された。又、シンポジウムでは鶴
岡生協の地元での販売を考える上で、量目の設定や、価格
の設定など高品質の品種、つや姫独特の顧客の反応があり
そうだという話は興味を引かれた。

ペンリレ 徒然草

富樫裕子



年末。我が家
に今まで見た事もないくらい大きくて、キバをむき出した、りつばな干鮭が届きました。送り主は岩手県田老町の山本さん。私が短大の時の大親友のお母さんでした。彼女の実家は民宿をやっている、すぐそばには立派な防波堤があり、その上を「せつかくの景色がよく見えなくて残念だね」と歩いた学生の時の記憶が甦ってきました。その巨大なコンクリー



トの防波堤も東日本大震災の津波で粉々に壊されてしまった映像がTVで流れ、彼女のお母さんは無事でいるだろうかと恐くて、すぐには彼女に聞けませんでしたが、しばらくして連絡をとると、津波の来た時に、たまたま休みだった孫におぶわれて逃げ、命だけは助かり、かけた彼女と「このチョコレートパフェおいしいネ」と泣きながら母子で甘いパフェを食べられる喜びをかみしめたと話してくれました。その話を聞き私の出来る事をしたと思ひ、我が家のお米をお母さんたちの仮設住宅に送る事にしました。義援米のつもりでしたが、お魚をお礼として送ってくれたのでした。電話で漁師のお兄さんと話をしながら、津波になんか負けない力強い声に、逆にこちらの方が励まされ

ました。お正月用にと、我が家のお米と娘のジャム、庄内協同ファームのお餅も送り、とても喜んでもらい、このご縁を大切にっつけていけたらと思っています。色々な報道を耳にするたび、被災地の人が一日も早く元気をとりもどし、元の生活にもどれる事を切に願っています。

庄内の冬

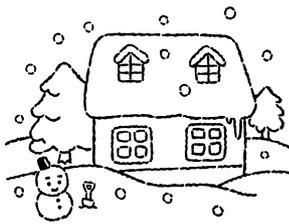
夜明け前、はっきりとは目覚めぬ意識の底で除雪車の響きを聞く。

「今日も雪。」起きなければと思いつつ暖かな布団の中で、短いまどろみを楽しむ。冬ならではの小さな贅沢だ。

朝食の支度に向かう頃、我が家の除雪機も動き出す。幹線道路は市の除雪車がやってくれるが、家の周りは個人で除雪し、道路へとつなぐ。

雪が小康状態になった日には、屋根の雪下ろし、木々の雪払いなどをし、被害を防ぐ。さらに、施設園芸をやっている人は毎日、ハウスの除雪にも追われ肝心の仕事に着く頃には汗だくだ。「この雪がなかったら。」という思いが頭をかすめるが、思っても仕方のないこと。この厳しい季節の向こうには暖かい春が約束されている。

それを励みに今日を頑張る。



様に。

新しい年になり1カ月が過ぎました。まだまだ寒い日が続いていますが、皆様どのようにお過ごしでしょうか？
今年の冬は雪が年明けから、やや多くなっているものの今のところ「普通」の冬になっています。妙に静かな夜などは「シンシン」と雪が降り、明かりに照らされると幻想的な世界が広がります。「綺麗だね」と感じながら就寝します。すると朝になると「こんなに雪が・・・」と言う状態となり、セツセツと除雪に汗を流します。
私達の住む山形県では普通の生活が送られています。同じ東北でも福島、宮城、岩手では、まだまだ震災の傷跡が大きく、今だ避難生活が続いています。私達、庄内協同ファームでは炊き出しや物資提供等の支援を行っています。一日も早く普段の生活に戻る事を願うばかりです。
さて今年はどうなるのでしょうか。異常気象が恒常化し毎年同じ様に作物を作ることが難しくなっています。去年「こうだった」から今年は「こうしよう」と考えてみて作業をしても大自然には全く太刀打ちできません。去年私の枝豆は惨澹たるもので今まで経験したことがありませんでした。
自然に負荷を掛けず、やさしく、しかも美味しい作物を作ることが私達、庄内協同ファームの使命と考えています。私達の作る農産物、加工品等を食べて頂き皆様が元気なうらえれは幸いです。今年もよろしくお願致します。
皆様にとって今年も良い年であります

(銀)

あとがき

